

表現のいのち

感じる心を深める



●企画・製作
(株)桜映画社
●協力
(財)日本視聴覚教育協会
●規格
16ミリ・カラー・20分
●販売価格(消費税別)
16ミリ/160,000円



文部省特選



平山先生のアトリエ前で

●———すいせんのことば

文部省初等中等教育局教科調査官 遠藤友麗

絵を描ける人がうらやましい。私も描けるようになりたい……。そう思う人はたくさんいるでしょう。絵を描くことはとても大きな喜びです。でも多くの人が、絵はそっくりに描けなければだめと思い込んではいないでしょうか。表現するうえで最も大切ないのちともいえるべきことは、「そっくりに描ける」ことなのではないでしょうか。表現のいのちは「自分が何に感動し」「それをどう表現したいのか」ということ、つまり、「美しさなどを感じ取る

心——感性」なのです。

では、感じ取るということは、どういうことなのでしょう。この映画は、そこに焦点をあて、感じたことを絵に表すことの大切さとその方法について、生徒の悩みとそれに答える画家・平山郁夫先生の語る言葉を中心に、わかりやすく製作されています。

「感性」についてどう指導すれば良いのかわからない、という先生方の悩みをよく耳にしますが、その悩みにズバリ応える貴重な映画だと思います。



絵の合評会

人物デッサンの風景

●—— あらすじ

幼い子供の描く絵は、のびのびと自由奔放に表現されているのに、中学生になると、対象物をそっくりに描こうとして、なかなか思うようにできなくて悩むことが多い。

そうした中学生たちが、日本画家の平山郁夫先生を訪ね、画家のものをみる目、絵を描く心について聞いた。

新鮮な目でものをよく見て、絵を描いてみよう。木の写生が始まった。

どの木をどの位置から見たら、自分の感じにぴったりするだろう？ 自分が納得するまで、描きたいと思うものを探してみよう。

どんな風に描こうか、どう画面に入れようか？ 自分の感じたものや自分の気持ちが、次第に形になっていく。

色を塗り始めると、もっといいものに気がついて、描きたいイメージが膨らんでくる。

でも、なかなか自分の感じたように描けないとやはり悩む。

そんなとき、「君たちは今、成長している時期だから、思うようにいなくて困っているんだ。困ったときの方が自分を強くしている時期なんだ。自分の感じたことを大切にしていきなさい」という平山先生の言葉が思い出される。

完成したたくさん木の絵。ひとりひとり、感じ方が違うから、出来上がった絵も一枚一枚違ってくる。その人らしさが伝わってくる。絵を描くことだけでなく、日常のさまざまな活動の中で感じる心は深められる。感じる心が磨かれることによって、自分らしさに気づき、心豊かな生活が生まれてくる。



木を写生する生徒たち

●—— 鑑賞・利用の手引き

全国造形教育連盟委員長 工藤裕功

映画を鑑賞する前に

▶絵画に限らず表現において、いのちともいうべきもっとも大切なものは、感性『感じとる心』です。

▶この映画は、感性というものについてわかりやすく教えていくとともに、自分の感じ方を大切にして、その人らしい絵を描いていくことこそが大切なのだということを感じとらせていくものです。

映画の利用の仕方

▶美術(絵画)の授業の中で

●絵を描く前に、まず感じることの大切さを教え、表現への関心、意欲づけとする。

●そっくりに描くことより、その人らしさを出していくほうが大切なことに気づかせる。

●迷ったり悩んだりすることも、ひとつの表現をしていく上で大切なことを理解させる。

●絵の専門家(画家)も、感じ方を大切にしていることを、また同じように悩み苦しみながら創作していることを教え、生徒を励まし、勇気づける。

●友達の作品を見たり、また自分の作品を友達に見せ、その感じとったものが何であるかについて、感想を話し合わせ、ひとの感じ方についても理解させる。

▶父母の集会や美術教育の研修会の中で

●表現をしたり、個性を作っていく上で、感性の重要性について認識してもらおう。

●美術創作活動することによって、日常の心が新鮮で豊かなものになっていくことを、感性の問題としてとらえる。

●対象

- 中学校美術科教材 ■高等学校芸術科(美術)教材
- 地域社会活動教材→児童館・子ども会等の創作活動、PTA・成人講座

●指導

文部省初等中等教育局教科調査官 遠藤友麗
金沢大学教授 新川昭一
前・新宿区立西戸山中学校教諭 原田利一郎
東京学芸大学付属小金井中学校教諭 水野谷憲郎

●協力出演

東京芸術大学学長 平山郁夫

●撮影協力

東京学芸大学付属小金井中学校・幼稚園 他

●製作スタッフ

編集=加納宗子
製作=村山和雄 解説=小野田英一
演出・脚本=花崎 哲 音楽=角田 敦
撮影=木村光男 録音=アオイスタジオ
照明=水村富男+佐久間勇 現像=ソニーPCL